

# 基幹相談支援センターとともに

国分寺市障害者基幹相談支援センターと関係を紡いでくださった方より、メッセージをお寄せいただきました。これからもよろしく願いいたします。

## 笹淵 真子

東京都教育庁都立学校教育部  
学校健康推進課  
課長代理（2022年度の肩書き）



基幹の設置10周年おめでとうござ  
います。障害者雇用率制度【事業主  
に対し、従業員の一定割合（＝法定  
雇用率）以上の身体・知的障害者  
の雇用を義務付け（※精神障害者はカウント可）】が1976年  
の法改正により法的義務となり、以後、何度か改正が行われ、  
2013年に2.0%、2018年4月に2.2%、2021年3月からは  
2.3%へと段階的に引き上げられてきました。それに伴い、障  
がい者の雇用者数は連続で過去最高を更新し、障がい者の多く  
は、社会にでて働く機会が多くなりました。

私の勤務する特別支援学校でも就労にむけてのさまざまな支  
援が行われています。しかし、学校は、小学校1年から高校3  
年生までの12年間、人生のほんの一部にしかなりません。障  
害の診断を受けてから地域の支えがなくては、子育てもうまく  
いきません。また、高校卒業後就職してもそれからのほうが長  
い職業人生が続きます。障がい者が社会にでるためには、自助、  
共助、公助の適切な組み合わせによる「自立のための社会的支  
援システムの構築」がとても重要になってきます。万葉の里は  
地域の中で、さまざまな障害がある方が安心して生活できるよ  
う支援して下さる心強い存在です。これからも、真に必要な  
支援を提供して下さる基幹を応援していきます。

## 松村 洋明

医療法人社団根岸病院 常務理事  
医療相談室室長



### 時代とともに、間断なく

基幹相談支援センターをはじめ、  
国分寺市の関係機関の皆様には日々  
の地域連携にご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

東京都における1年以上の精神科長期入院患者は2011年に  
11,970人、2019年には10,240人と減少してきていますが、  
依然として長期入院は精神科医療にとって大きな課題となっ  
ています。これからも難治性に経過している患者さまの治療と地  
域で支えていく仕組みを融合していくことが重要です。

他方、医療や専門的支援を提供することも大切ですが、それ  
らを前提としない介入や見守り、地域生活のなかでの緩やかな  
つながりを構築することはそれ以上に求められる時代となっ  
ていきます。これからも支援者の皆様とともに研鑽を積みながら、  
進化し続ける基幹相談支援センターの更なる発展に向けて全力  
を尽くして参りますので、よろしくお願い申し上げます。



## 木村 利信

株式会社典雅 プロジェクト推進室  
able グループ グループマネジャー  
able factory 施設長



基幹の研修\*では、子どもたちが  
自分の心と身体について知り、生命・  
人権・人格の尊重を根底にした生き  
方の教育が性教育であるという捉え  
のもと支援者が集い共に学びました。研修には、放課後等デイ  
サービスの従事者が多く参加されていましたが、本社にも放課後  
等デイサービスに通所する障害のある男児・女児の保護者からの  
相談が多く、つじつまが合いました。

私は、現在、就労継続支援B型の施設長ですが、10年程前ま  
では、施設側も障害のある子の性についての理解は乏しく、テ  
ンガの商品に対して拒絶反応を示す職員もいました。今回の研修で  
は、テンガの商品を手にとってもらい、直接、たくさんの質問を  
いただき、支援する職員の関心が高いことを実感しました。

TENGAヘルスケアでは、2019年にセイシル製作チーム\*\*を  
立ち上げ、10代の性に関するトラブルの予防・解決、さらに性  
に対するポジティブな姿勢を育めるように、中学校、高校への出張  
授業も展開しています。文部科学省では、2019年にGIGAスク  
ール構想を開始し、各家庭でもICT化が整備され、正確な情報を入  
手しやすくなり、相談先も容易に見つけられるようになり、相談  
のハードルがとても下がったと感じています。

本社の新たな企業理念に、「[生きる]をよろこぶ世界へ」に、「ワ  
クワク」する想いを込めて、人々が健やかに楽しく生きる「生」  
を包括的に取り扱う事業展開へと一新しています。

今後とも基幹とタッグを組んで、研修等に全面協力する所存です。

## 千田 孝一

国分寺市 福祉部 障害福祉課  
事業推進係長



### 基幹と二人三脚での取組

基幹と障害福祉課はこれまで多くの  
取組を進めてきました。私が着任した  
5年前を振り返ると、随分と状況が改  
善されたかと自負しております。これは  
一重に、基幹の風通しの良さや障害福祉施策を推進することへの  
熱意によるものだと感じています。

まずは、相談支援事業所連絡会が軌道に乗り、活発な意見交換  
がなされ、相談支援専門員の事務負担を軽減すべく、国分寺様式  
の利用計画や計画相談に関する確認事項を作成するとともに、相  
談支援専門員の支援力向上に向けて、研修や事例勉強会、個別コ  
ンサルテーション等を実施してきました。

次に、基幹と障害福祉課で共同運営する障害者地域自立支援協議  
会は、全体会及び3つの専門部会で当初スタートしましたが、現在  
では各専門部会で作業部会が設置され、年間の合計開催回数が50回  
を超えるほど活発に活動し、さまざまな取組を行っています。

そして、地域生活支援拠点の拡充については、障害者センター及び  
KOCO・ジャムの2箇所でも当初スタートしましたが、現在では相談支援  
事業所、短期入所事業所及びグループホーム（1箇所）が加わり、地域  
生活支援拠点に必要とされる5つの機能の充実が図られています。

以上の取組が地域のネットワークづくりに繋がっており、関係者で  
顔が見える関係が築かれ、更なる取組を実施できる好循環が生まれ  
ていると考えています。関係者の皆さまにおかれましては、いつも  
好意的に取組にご協力くださり、この場を借りて感謝申し上げます。

これからも、障害のある方が自分らしく生き生きと暮らせるよ  
うに、皆さまのご意見に耳を傾け、基幹相談支援センターと二人  
三脚でさまざまな取組を進めてまいりますので、引き続きよろし  
くお願いします。

\*令和4年度国分寺市相談支援スキルアップ研修 ネットワーク研修Ⅲ(児童)「福祉職の性支援と多職種連携～今なぜ、学ぶ必要があるのか?～」開催日時：令和5年2月21日(cocobunjiプラザリオンホール)  
\*\*「セイシル 知ろう、話そう、性のモヤモヤ 10代のための性教育バイブル」(著：セイシル製作チーム) | 2022年発行 | 株式会社 KADOKAWA